

キングス・ガーデン埼玉

KING'S GARDEN SAITAMA NEWS LETTER 2022年1月1日発行

65

その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜び、感謝と歌声とがある。イザヤ51:3



水害を乗り越え 新施設完成!

賜物を捧げる時

キングス・ガーデン埼玉 理事
川越KG建設委員長 児島康夫

2019年10月13日夕方、水害の緊急避難先を慰問した時、被災した入居者から「これは天災ではなく人災ですよ」と言われた。静かな声であったが、怒りを含んだ矢のように私の心臓を貫いた。先の洪水被災から20年、理事会は何をやっていたのかと問われた気がした。何もなかったわけではないが、結局は前回以上の被害で、お年寄りに大変な恐怖を与えてしまった。言い訳は許されない。その夜、私は神の前に出て祈った。「これからどうしたら良いのですか」と。「すでに夕方、私の心を伝えたよ。なすべきことをしなさい。私がついているから」と言われたような気がした。

その週から理事長を中心とする災害対策委員会が発足し、様々な対策や方針を話し合った。その中で最大の課題は「お年寄りの生活の安全と安心を一日でも早く取り戻すこと。そのためにも復旧は今の土地ではなく、洪水の心配がない高台に移転する」という原案をまとめた。この提案には「それができないなら特養事業から撤退す

る」という不退転の覚悟を含ませた。原案は理事会で承認され、さらに国・県・市に請願され、復旧の方向が定まった。動き出すと行政の協力も最大級の支援がなされることになった。その過程で復旧までの2年間、県と市が前例のない福祉仮設住宅を作り、無償で貸していただけた朗報。災害対策委員会から施設復旧工事業業は建設委員会に引き継がれ、新特養の土地も最高の場所を得て、新春には素敵な建物が完成する運びとなった。

こう書くと全てが順風満帆で進んだように思われるかもしれないが、事実とは逆である。時には計画が破綻しそうになったり、時間との戦いを強いられたりした。建設委員会開催は50回余を数え、開催時の始めと終りに必ず祈った。その都度、この事業に懸ける神様の本気度を実感し、奇跡のようなことがしばしばあったので、絶望することはなかった。むしろやがて平安と希望に満ちたお年寄りの笑顔を見られるかと思うと喜びが湧いてくる。賜った物を主に捧げられる日が待ち遠しい。